

日本語の擬音語・擬態語とスンダ語のKECAP ANTEURANの対照研究

イサップ・サブタリ

1. はじめに

現在、インドネシアでは一番人気のある外国語は日本語だと言われる。大学や日本語塾などで日本語を学んでいるインドネシア人、特に若者がだんだん増えてきている。しかし日本語は習得するのに簡単なものではなく、難しいものである。なぜなら、漢字や語彙などがたくさんあるからである。日本語をよく習得するという日本語学習者なら四つの言語部門すべてがバランスよく学習されるべきだろう。それは聴解、読解、会話、作文である。その中で、すべて言語部門において語彙というものは不可欠なものである。しかし、語彙についての研究は易しくない。というのは、語彙は数が多いだけでなく種類も多いからである。語彙の研究に力を入れる必要があるだろう。日本語の語彙は、以下の品詞に分類されている。名詞、イ形容詞、ナ形容詞、副詞、動詞、助詞、助動詞、連体詞、接続詞、感動詞である。

日本語学習者、特にバンドン教育大学の学生にとって、上に並べた述語は珍しいものではない。学生たちは、これらの述語を、会話や作文などでよく使っているからである。しかし、擬音語・擬態語については、分からない学生がまだ多い。さらにインドネシアの大学では、擬音語・擬態語について特別な授業もなく、参考書もあまりない。一方、日本では、日常会話でひんぱんに使われている。日本語学習者にとって、擬音語・擬態語の用法は大切なものなのである。日本語の擬音語・擬態語をインドネシア語に翻訳しようとしても適当な訳語は見つからない。しかし、インドネシア語のスンダ語だったら、日本語の擬態語・擬音語のほとんどについて対応する適当な訳語が見つかる。筆者はスンダ人でありスンダ語のnative speakerである。

以下には、日本語の擬音語・擬態語とスンダ語のkecap anteuranの対照研究を行っていきたい。

2. 擬音語・擬態語について

一定義

『擬音語・擬態語辞典』（浅野鶴子編、角川書店）の冒頭で、擬音語・擬態語を論じている「擬音語・擬態語概説」（執筆＝金田一春彦）によると、擬音語・擬態語は次のように

(2)

説明している。

㊦ 擬音語 …… 外界の音を写した言語

○ 擬音語 …… 無生物の音を表わすもの

○ 擬声語 …… 生物の音を表わすもの

㊧ 擬態語 …… 音を立てないものを、音によって象徴的な表わす言葉

○ 擬態語 …… 無生物の状態を表わすもの

○ 擬用語 …… 生物の状態（動作容態）を表わすもの

○ 擬状語 …… 人間の心の状態を表わすような様子

これは、擬音語・擬態語の広がりをよく教えてくれるものである。ただし、これらの用語は、普通そんなに厳密に使い分けられているわけではない。特に、先の広義の擬音語は、従来、擬声語と呼ばれることが多かった。

二 擬音語・擬態語の用法

『日本語擬態語辞典』（五味太郎 1994年）では、擬音語・擬態語の説明は文法的に分類している。

a. 副詞タイプ

活用がなく、おもに連用修飾として用いるもの。以下の三種類がこれに含まれる。

(i) 一般的に副詞と呼ばれているもの、末尾に「と」を伴わないで、そのままの形で用いる。

例 いよいよ出発だ。いちいちうるさい。

(ii) そのままで、あるいは末尾に「と」を伴って副詞として用いる。

例 おずおず（と）差し出す。ほかほか（と）温かい。

(iii) 末尾「と」を伴って、副詞として用いる。

b. ナ形容詞タイプ

語尾にナ形容詞の活用語尾を作っている。ただし、後ろに名詞が来る場合（連体形）にはナ形容詞の活用語尾「-な」のかわりに、「の」を用いる場合が多い。

例 意見がばらばらだ。へとへととに疲れる。あつあつの二人。

c. サ変動詞タイプ

末尾に「-する」を伴って、サ行変格活用形の複合動詞として用いるか、あるいは書く助詞+「する」を伴っている。

例 うきうき（と）して、。ぼさぼさ（と）した髪、。うじうじするな。

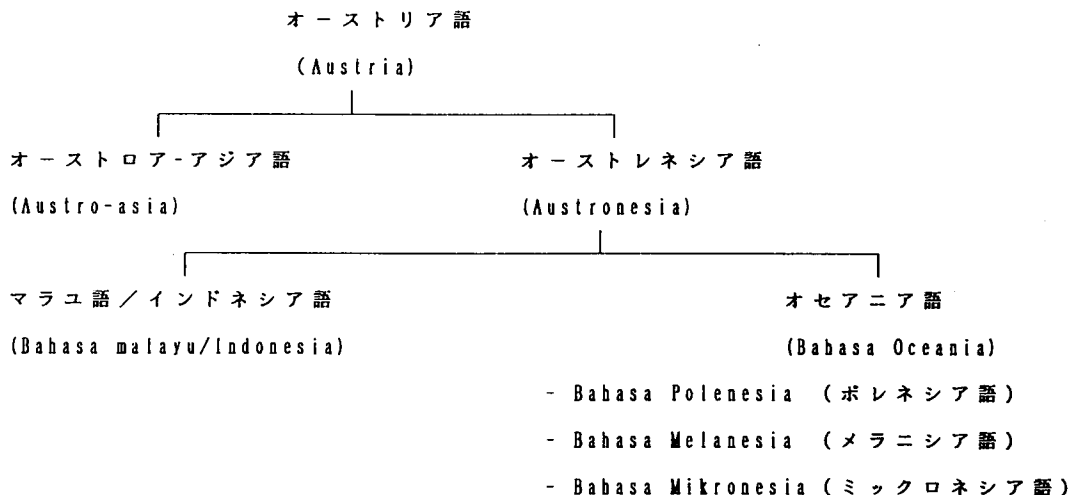
以上、日本語の擬音語・擬態語についての説明を終わる。次は、スダ語の kecap ante uran について、説明する。スダ語というのはインドネシアで地方語の一つである。

3. インドネシア語とスンダ語の違い

「インドネシア」という名前は「Indos」と「nesos」というラテン語に由来する。

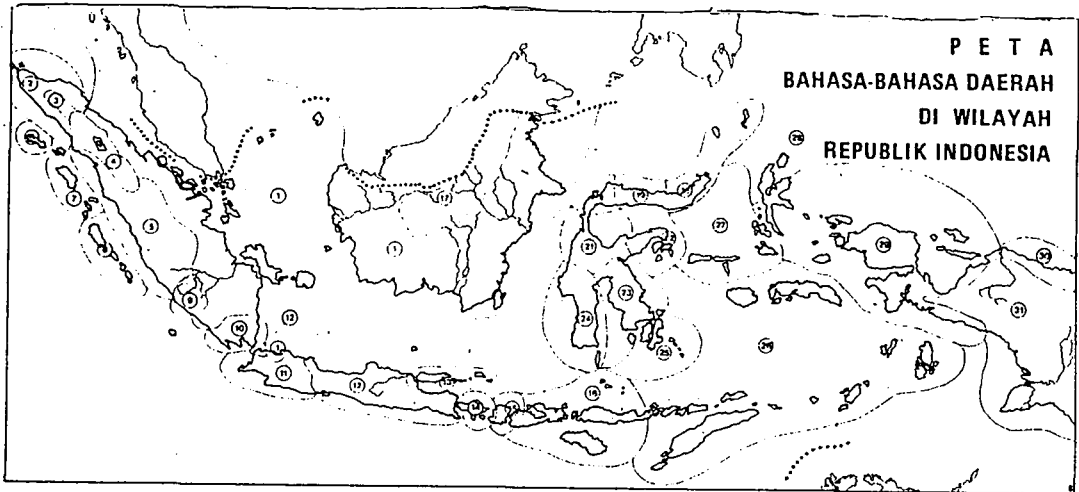
「Indos」は「インド」の意味で、「nesos」は「島々」の意味である。その表現は「ロガン」というイギリス人によって初めて使われた。その後、アドルフ・バステアン (Adolf Bastian) は「Indonesian over die insels des Malayshichan archipels」という本の中で使った。それから、インドネシア語の系統を示すために、次の表をかかげる。

－インドネシア語の歴史



これらの言語はボルネオ、フィリピン、インドネシア、マダガスカルで使われている言語である。

インドネシアは島国で、世界中で島が一番たくさんある国だと言われている。調査によれば、インドネシアの島の数は13,677だそうである。しかし、現在では人が住んでいる島は1000程度しかない。それ以外はまだ人が住んでいない。全部の島の中で、主に大きな島は5つある。それはスマトラ島、ジャワ島、カリマンタン島、スラウェシ島、イリアン島である。インドネシアは27地方に分かれていて、その各地方は日常会話では、大体、その地方の人だけが分かる地方語を使っている。一つの地方語は他の地方語と全く違うので、話そうとしても通じない。しかし、コミュニケーションの時その違いは我々にとって、問題にはならない。なぜなら、インドネシア語という共通語が使われているからである。これについて、インドネシアでの地方語はどのくらいたくさんあるのか、次の地図を見ると、より明確になるであろう。



- | | | |
|-----------------------|---------------------------------------|------------------------------------|
| 1. Bahasa Melayu Riau | 11. Bahasa Sunda | 21. Bahasa Toraja |
| 2. Bahasa Aceh | 12. Bahasa Jawa | 22. Bahasa Loinang |
| 3. Bahasa Gayo | 13. Bahasa Madura | 23. Bahasa Bungku |
| 4. Bahasa Batak | 14. Bahasa Bali | 24. Bahasa Makasar - Bugis |
| 5. Bahasa Minangkabau | 15. Bahasa Sasak | 25. Bahasa Munas - Butung |
| 6. Bahasa Simelungun | 16. Bahasa Bima - Sumbawa | 26. Bahasa Timor - Maluku Selatan |
| 7. Bahasa Nias | 17. Bahasa Dayak | 27. Bahasa Sula - Bacan |
| 8. Bahasa Mentawai | 18. Bahasa Menado - Sangir (Minahasa) | 28. Bahasa Halmahera Utara |
| 9. Bahasa Rejang | 19. Bahasa Gorontalo | 29. Bahasa Halmahera Selatan |
| 10. Bahasa Lampung | 20. Bahasa Tomini | 30. Bahasa Pantai Utara Irian Jaya |
| | | 31. Bahasa Pedalaman Irian Jaya. |

Dari:
Illustrated Atlas
of Indonesia
Volume three:
Custom & Culture

この地図を見ると、インドネシアで地方語がたくさんあるということは分かっている。しかし、我々は、日常会話では自分の地方語を使い、そして、学校や会議などのような正式な場では共通語としてインドネシア語を使っている。

私の地方語はスダ語である。この言語は西部ジャワという地方で約三千万人によって使われている。スダ語とインドネシア語を比べれば、語彙などが全く違う。同じ意味を持つ単語は非常に少ない。例えば、[bisa]という単語はインドネシア語でもスダ語でも「できる」の意味を持っているが、このような単語はめったにない。スダ語でインドネシア語の訳語がない語は多いようである。例えば、「Kecap anteuran」という日本語の擬態語・擬音語のような言葉はインドネシア語では形容詞しか存在しない。また、スダ語には尊敬語・謙讓語があるが、インドネシア語ではあまりない。ところが、

インドネシア語からスダ語に入ってきた単語のほとんどは、意味的には同じであるが発音と表記が少し変わったものがある。その言葉は外来語のような感じがある。以下に例をあげる。

インドネシア語から移入されたスダ語の単語

種類	インドネシア語	スダ語	日本語
名詞	sekolah	sakolah	学校
	sepatu	sapatu	靴

	kursi	korsi	椅子
形容詞	benar	bener	正しい
形容動詞	susah	sesah	難しい
	berat	beurat	重い
	dekat	deukeut	近い
	pantas	panles	当たり前
動詞	duduk	diuk	座る
	tulis	nulis	書く
	ingat	inget	思い出す
	tolong	tulung	助ける

上に並べて単語は、インドネシア語に似ているが発音と表記が変わったので、他のインドネシア人と話そうとしても、通じない場合が多い。以上、インドネシア語とスンダ語の違いの説明をした。次に、スンダ語のkecap anteuranについて詳しく説明する。 —

4. スンダ語のkecap anteuranについて

「犬はワンワンと吠える」「ガチャンとガラスが割れた」「煙がモクモクと出ている」などのような言葉は日本語では「擬音語・擬態語」と呼ばれ、日常会話でよく使われている。日本語と同様、スンダ語でもこのような言葉は日常会話でよく使われていて、「kecap anteuran」と呼ばれている。例えば、「paralak' turun hujan」「gog-gog' anjing disada」「pre' kaca peupeus」「polohok'melong」などである。（日本語の「雨がバラバラと降っている」「犬はワンワンと吠える」「ガチャンとガラスが割れた」「ウツトリと見る」と同じ意味である。）下線を引いている言葉は「kecap anteuran」と呼ばれている。定義のほうは日本語の擬音語・擬態語とほぼ同じである。次のように定義されている。

kecap anteuranというのは、生物（人間と動物）無生物（植物、自然界など）の発する音や声を真似て、人間を含む無生物、無生物、自然界の有り様、現象、変化、動き、成長などの状態を描写的・象徴的に音声で発現した言葉である。

ところが、今まで、その「kecap anteuran」について、研究したスンダ人の学者はほとんどいないので、参考になる本もあまりない。しかし、その言葉について、形態的に三つのパターンを持つことがわかった。

(6)

a. 一つの語からできた言葉

- 例、 - polobok melong (うっとりと見る)
 - ret ningali (チラッと見る)

b. 二つの語からできた言葉

- 例 - buru-buru (ぼちぼち)
 - gaya-goyo (ぐずぐず)

c. 三つの語からできた言葉

- 例 - brang-breng-brong (ごろんごろん)
 - dag-dig-dug (どぐどぐ)

スダ語をインドネシア語に翻訳する時、「主語(s)、述語(p)、目的語(o)という文型の文は客観的な事実などをという文で、翻訳するのは可能である。例えば、スダ語の「Manehna lumpat ka sakola」とインドネシア語の「dia berlari menuju sekolah」(彼は走って、学校に向かっていく)は翻訳可能である。ところが、この主語や述語に説明する言葉がついて、「Berebet manehna lumpat ka sakola」という文になると、翻訳ができなくなってしまう。なぜなら、「berebet」という言葉はインドネシア語には訳語がないからである。「berebet」などの言葉は修飾語として、その文の状態などを説明するものである。

(修飾語)	(主語)	(述語)	(目的語)
berebet	manehna	lumpat	ka sakola

他の例

'Ret' indung na ningali anak na. (母はチラッと子供を見る。)

Bintang dilangit 'kucap-kiceup' cabayaan.

(空で、星がキラキラと輝いている。)

だから、「berebet」「ret」「kucap kiceup」などのkecap anteuranは動詞を修飾するのに用いられる。

4. 擬音語・擬態語とKECAP ANTEURANの対照

擬音語・擬態語は、日常会話でたいへんよく使っている。そのことから分かるように、語彙数にも非常に多い。スダ語のKecap Anteuranもそうである。したがって私がこのレポートで、スダ語のKecap anteuranと日本語の擬態語・擬音語について、すべてを比較するのは不可能なので分野を対照していく。以下には、目の表情に関するものを取り上げようと思う。

目の表情・動きを表わす擬態語とKECAP ANTEURAN

A. 目を大きくする状態

1. 怒る表情

a くわっ = bunceulik

b ぐっ = molotot

c ぎらり/ぎらっ = barasat

例文

a 捕まえた武士は、しばらく目をつぶっていたが、突然くわっと目を見開き敵をにらみつけた。

(Satria anu katangkep teh, rada lila meureumkeun panonna, tapi ngadadak 'bunceulik' benta bari jeung melong ka musuh.)

b 公園の花を盗んでいた子供たちを番人はぐっとにらみつけた。

(Panjaga taman 'molotot' ka barudak anu geus maling kembang di taman.)

c 人影を見たというと、刑事の目はぎらっと光った。

(Barang ningali kalangkang jelema, eta intel pulisi teh 'barasat' panon na jadi hurung.)

しかし、

—台所でぎらっと光るものを見つけた。

('burinyai' di dapur kapanggih aya barang nu ngaburinyai)

—刀を差すと、ぎらっと光った。

(Barang pedang dipesat 'gurilap' ngagurilap.)

で使われている「ぎらっ」という擬態語はkecap anteuran では三つの意味を持っている。それは「barasat」「gurilap」「burinyai」である。

2. 可愛い表情

a くりくり = buleud

b ぱっちり = cureuleuk

例文

a まるまる太った可愛い赤ちゃんは、くりくりした目を見張って、私を見た。

(Budak lucu, gendut jeung mungil teh, ku panon nu 'buleud' ka dewek.)

b 彼女は目がぱっちりしていて、とてもチャーミングだ。

(Eta parawan teh panonna 'cureuleuk' kacida geulis na.)

3. 強い欲望を表わす表情

a ぎらぎら = ngabebela

例文

(8)

a 狼が目をぎらぎらさせて、こちらをにらんで、今にも飛びかかりそうだ。

(Ajag teh panonna hurung 'ngabebela', melong ka dewek siganamah ayeuna oge rek ngarontok)

しかし、

—夏の日がぎらぎら輝いて、とてもまぶしい。

(Panon poe misim panas leh 'burinyai-burinyai' buburinyaian kacida serab na.)

で使われている「ぎらぎら」という擬態語はkecap anteuranでは二つの意味がある。それは「ngabebela」「burinyai-burinyai」である。

4. 楽しい表情

a きらきら = marahmay

b きらっ・きりり = kolepat

例文

a 彼女は音楽のことになると、いつも目をきらきらさせて、話をする。

(manebna mah mun negnaan soal musik kudu we ngomong ku panon nu 'marahmay'.)

しかし、

—星は空できらきらと輝いている。

(bintang di langit 'kucap-kiceup' cahayaan.)

—ダイヤモンドがきらきらと光って、とてもきれいだ。

('burinyai-burinyai' inten teh buburinyaian kacida alus na.)

で使われている「きらきら」という擬態語はkecap anteuranでは三つの意味がある。それは「marahmai」「kucap-kiceup」「burinyai-burinyai」である。

b 愛する人の名前を聞いて、彼女の目はきらっと光った。

(Barang ngadenge ngaran jelema anu dipikabogobna disebut, panon eta parawan 'kolepat' jadi siga cahayaan sakeudeung.)

5. 驚く表情

a ばちくり = colohok

例文

あまりの値上がりに、みんな目をばちくりさせるばかりだ。

(Kabehannana ngan 'colohok' kulantaran harga kacida naek na.)

B. 目が動かない状態

1. 目を凝らす表情

- a まじまじ = neuteup seukeut
 b しげしげ = nelek-nelek/nyidik-nyidik
 c じろり = delek
 d じろじろ = puncrang-pencrong/dipararencong
 e じろっ = dilak
 f じっ・じーっ = mencrong/mencrooong

例文

a 祖母は僕の恋人とまじまじ見ながら、「どんあ仕事をしているのか」と聞いた。

(Si nini teh, bari 'neuteup seukeut' ka kabogoh dewek, terus nanya, 'ari damel teh kanu naon neng?' pok na.)

b 母親は「これが十年前に家出したあなたの子だよ」

('ieu teh anak anjeun tea anu 10 taun kaliwat kabur ti imah' ceuk indungna bari 'nelek-nelek' photo anu kakara nang nyokol.)

c 知らない人をそんなにじろりと見てはいけないよ。

('teu menang 'puncrang-pencrong' siga kitu ari ka jelema nu teu wawuh)

d 外国人は田舎へ行くとじろじろと見られる。

(Urang asing mun indit ka kampung, pasti we 'diparencrong')

e 教授は授業中に飛び込んできた学生はじろっと見た。

('delek' pa Dosen ni ngadelek ka mahasiswa anu asup ka kelas dina tengah-tengah kuliah.)

f 子供は始めて見るかたつむりをじっと目を凝らして見ている。

(Budak teh kakara meureun ningali keong, 'mencrong' terus pinuh perhatian.)

子供はジューット穴のあくほど外国人を見つめた。

(Budak teh 'mencrooong' teu kiceup-kiceup ka urang asing.)

2. 眠たい表情・やる気がない表情

- a しょぼしょぼ = ceuleuyeuyeu
 b とろん・とろっ = lenyap
 c どろん = leyep/teler

例文

a 迎えに行った時、お医者さんは寝不足の目をしょぼしょぼさせて、もうすで

に起きていた。

(Basa keur dijemput, dokter teh panonna 'ceuleuyeu' kurang sare, siga-namah harita oge kakara budang sare.)

b テレビを見ていた坊やの目は、とろんと眠そうになってきた。

(Panon budak nu keur lalajo TV teh, 'lenyap' kalingali siga nu tunduh)

c 酔っ払いは、どろんとした目で周囲を見回した。

(Jelema nu keur mabok teh, panon na 'teler' ningali kasakuriling na.)

3. 陶酔する表情

a うっとり = olohok

例文

a あまりの美しさに、ただうっとりして眺めていた。

(kulantaran kacida geulisna, dewek ngan bisa 'olohok' ningalikeun.)

C. 目玉・瞳が動く状態

1. ちらちら = rarat-reret

2. きょろきょろ = puluhak-polohok

3. ぎょろぎょろ = burileng-burileng

4. ぐりぐり = puncereng-puncereng

5. ぐるり = gular-giler

例文

1 来客は部屋の中をちらちらと盗み見た。

(tamu teh 'rarat-reret' nempo sakeudeng ka jero kamar

しかし

- 雪がちらちらと降ってきた。('puruluk-puruluk' salju turun.)

- そのうわさがちらちらと僕のところに聞こえてきてくる。

(Eta gosip teh, 'samar-samar' geus mimiti kadenge ka kampung dsewek)

- 海の上で、夜釣の舟がちらちらと見える。

(Di tengah laut, 'lapat-lapat' katingali parahu nalayan peuting)

- 遠くから、笑い声がちらちらと聞こえてくる。

(Ti kajauhan 'lapat-lapat' kadenge sora nu seuri.)

で使われている「ちらちら」という擬態語はkecap anteuranでは四つの意味がある。それは「rarat-reret」「puruluk-puruluk」「samar-samar」「lapat-lapat」である。

2 田舎から始めて、大都市に来たばかり少女は、きょろきょろと落ち着きなく

高層ビルと人込みを見回している。

(Budak awewe anu asal na ti kampung, kakara harila datang ka kota gede, gawe na ngan 'puluhak-polohok' ningalian bangunan anu laluhur jeng kumpululan jelema loba.)

3 バーに入ってきた男はぎょろぎょろとテーブルを見回していたが、やがて出ていった。

(Lalaki anu asup ka bar bari 'burilang-burileng' ningali kana meja teh, teu lila ge geus kaluar deui.)

4 「なんか文句があるのか」と親父はぐりぐりした目を向いて、私をにらみつけた。

('naon kukulutus' ceuk bapak bari 'pureleng-pureleng' melong ka de-wek.)

5 彼はぐりぐりと聴衆を見回してから、ゆっくり話し出した。

(Saengges panonna 'gular-giler' kasakabeh nu datang, pok manehna ngo mong kalawan tenang.)

D. 瞬きする状態

1. ばしばし = kereceum-kereceum

2. ばちばち = peureudeui-peureudei

例文

1 電気を消し、茂蔵を見ると、彼は仰向いて目をばしばしさせていた。

(Ketika mematikan lampu, dan melihat ke 'Shigezo', manehna keur nga goler bari 'kereceum-kereceum' panonna keukeureceuman.)

2 目に埃が入ったらしく、彼は目をばちばちさせている。

(Kawasna mah kapengpeureunan, 'pereudeui-pereudeui' panonna manehna peupeureudeuyan)

E. 目が右または左だけ動く状態

1. ちらっ・ちらり = ret/reret

2. きょろっ・きょろり = mundelik

3. ぎょろっ・ぎょろり = burileng

例文

1 母は裁縫しながら、時々、そばで遊んでいる子供にちらっと目をやった。

(Indungna bari ngaput, sakapeung 'ret' ningali anakna nu keur ulin

di gigireun nana.)

2 彼は目をきょろっとさせていたずらっぽく笑った。

(Panon manehna 'mundelik' bari jeung ngabarakatak seuri.)

3 探偵はぎょろっと目を光らせた。

('Burileng' panon detektip teh ngaburileng hurung.)

以上、目の表情についての擬態語の例文をスダ語のkecap anteuranで翻訳してみた。いずれも、日本語の擬音語・擬態語に対して、kecap anteuran が対応することがわかった。

4. 結論

以上、日本語の擬音語・擬態語とスダ語のkecap anteuranの対照研究を行なった。以下のようにまとめることができる。

一 擬音語・擬態語はスダ語のkecap anteuranとほとんど同じ意味機能を持っている。その結果、日本語の擬音語・擬態語をスダ語で置き換えることが可能である。上に取り上げた目の表情を表わす擬態語の例文を検討することによって、明らかになったと思っている。

一 日本語の擬音語・擬態語よりも kecap anteuranのほうが意味的に多いと思われる数の方は両方とも多いが、スダ語のkecap anteuranのほうがもっと多い
例えば、「ちらちら」という擬態語はスダ語でもたくさんの意味を持っている。

●彼は部屋の中でちらちらと盗に見た。(=rarat-reret)

●雪がちらちらと降ってきた。(=puruluk-puruluk)

●そのうわさはちらちらと僕のところにも聞こえてきてくる。(=samar-samar)

●遠くから、笑い声はちらちらと聞こえてくる。(=lapat-lapat)

この「ちらちら」に対応するのに、スダ語では四つの語形がある。「rarat-reret」「puruluk-puruluk」「samar-samar」「lapat-lapat」である。より詳細な対照研究が必要とされる。

一 最後に、この擬音語・擬態語についての研究がインドネシアの日本語が学習者、擬音語・擬態語に興味を持っている人に役に立てば良いと思う。

参考文献

- 五味太郎 『日本語擬態語辞典』 (1994年) The Japan Times
- 阿刀田稔子・星野和子 『擬音語・擬態語使い方辞典』 (1993) 株式会社創拓社
- Andrew C. Chang 『(和英) 擬態語・擬音語分類用法辞典』 (1990年) 大修館書店
- 浅野鶴子編 『擬音語・擬態語辞典』 (1978年) 角川書店
- 天沼寧編 『擬音語・擬態語辞典』 (1974年) 東京堂
- Abdulah Ambari [INTISARI TATABAHASA INDONESIA (基礎インドネシア語の文法)]
(1983年) Djalmika Bandung (出版社)